

サステナビリティ担当役員メッセージ

豊かな未来に続く サステナブルな社会への貢献を目指します。

大塚グループは、“Otsuka-people creating new products for better health worldwide”の企業理念のもと、事業を通じた社会課題の解決に取り組み、自らの持続的な成長と、健康でサステナブルな社会の実現を目指しています。革新的で創造性に富んだ製品を通して皆さまの健康の維持・増進に貢献する独自のトータルヘルスケア企業として、人と地球が将来にわたって共存できる社会を次の世代につないでいくことで持続可能な未来に貢献していきたいと考えています。

環境の取り組みにおいては、事業活動におけるすべての環境負荷をゼロにする2050年環境ビジョン「ネットゼロ」を掲げ、「カーボンニュートラル」「サーキュラーエコノミー」「ウォーターニュートラル」「バイオダイバーシティ」を当社グループが優先的に取り組む環境課題としてグループ丸となって取り組みを進めています。

カーボンニュートラルでは、国内グループのエネルギーの一括管理をさらに強化する体制を整えることを目的とし、大塚グループエネルギー管理棟を開設しました。エネルギーの利用効率の最大化や再生可能エネルギーの導入など、グループにおけるエネルギーベストミックスの追求を目指しています。また、海外でも環境負荷の最も高いインド、インドネシアの大塚グループ子会社に大規模な太陽光発電設備やCO₂フリー電力の導入を積極的に行っています。

サーキュラーエコノミー、ウォーターニュートラルにおける活動は、限りある資源を循環利用し環境への負荷を軽減する、循環型社会の実現に貢献する取り組みと位置付けています。サーキュラーエコノミーでは、「大塚グループ プラスチックステートメント」のもと、グローバルでPETボトルにおけるリサイクル原料、および植物由来原料の使用割合を2030年までに100%とすることを目指しており、リサイクルPET樹脂を利用したPETボトルは、ポカリスエットをはじめとするさまざまな製品にも既に展開しています。また使用済みPETボトルの水平リサイクルを推進するため、行政、自治体、ビジネスパートナーと協働し、資源循環の構築を進めています。そしてウォーターニュートラルでは、水管理項目および管理基準を定めた、水管理ガイドラインを策定、取水から排水に至る水の保全を継続的に進めていきます。

「バイオダイバーシティ」は、生物多様性の保全と持続可能な生物資源の利用が、当社グループの持続的な成長に必要な不可欠であると認識し、2024年より新たに追加した優先課題です。今後は事業活動における自然への依存と影響の評価を実施し、自然との共生を進めてまいります。

大塚グループは引き続きグループ各社間で協働し当社グループならではの取り組みを推進することで、人と地球が将来にわたって共生し続ける社会を次の世代に繋ぐ環境経営に取り組んでまいります。

大塚ホールディングス株式会社
取締役副社長

松尾 嘉朗